



Morphologic characteristics of the placental basal plate in in vitro fertilization pregnancies: a possible association with the amount of bleeding in delivery

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2016-01-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 友紀 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/2917

論文審査の結果の要旨

不妊治療で実施される生殖補助医療(ART)の体外受精(IVF)や胚移植などは標準治療とされているが、ART 妊娠症例の分娩転帰において、ときに分娩時出血量の増加が報告されている。

今回、申請者は ART 妊娠症例が自然妊娠症例と比較して経膈分娩時出血量が多いことに着目し、胎盤基底膜板を病理組織学的に分析し、ART 妊娠と自然妊娠の比較ならびに ART の異なる手技における形態学的差違について検討した。

浜松医科大学医学部附属病院病理部に保管されていた 55 個の胎盤を用い、体外受精周期の新鮮胚移植による治療を受けた群(IVF 群)(6 個)、自然周期の融解胚移植の治療を受けた群(natural cycle 群)(13 個)、ホルモン周期の融解胚移植の治療を受けた群(hormonal cycle 群)(10 個)、年齢を合わせた自然妊娠群(コントロール群)(26 個)の 4 群に分け、後方視的研究を実施した。すなわち、各群の Rohr と Nitabuch フィブリン層の垂直方向の最大の厚みと脱落膜欠損率、胎盤病理組織学的所見、胎盤重量、分娩時出血量などを比較検討し、統計は z スコア(偏差/標準偏差)の散布図にて各相関を検定した。

その結果、hormonal cycle 群の Rohr フィブリン層が有意に厚く、厚みの z スコアと分娩時総出血量の z スコアは正の相関を示した($P<0.05$)。また、hormonal cycle 群では胎盤基底膜板の脱落膜欠損率が有意に高く、欠損率の z スコアと分娩時総出血量の z スコアも正の相関を示した($P<0.05$)。なお、hormonal cycle 群は有意に分娩時出血量が多い結果であった。

本論文は Rohr フィブリン層と脱落膜の付着部の変化を検討した初めての研究であり、胎盤基底膜板の形態学的特徴、ホルモン周期で Rohr フィブリン層が厚くなることを示し、また脱落膜層の欠損率が増加することは胎盤と子宮の癒着度が高まり、分娩時出血量に影響する可能性が示唆された。

結論として、ART の手技、特にホルモン周期の融解胚移植が、胎盤基底膜板の形態を変化させ、分娩時出血量を増加させる可能性を示した。本研究結果により、今後の産婦人科臨床において分娩時出血量を予知することが可能となり、出血に伴う重篤な合併症の予防にも繋がることが期待される。

以上より、本論文は博士(医学)の学位の授与にふさわしいと、審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 大園 誠一郎

副査 岩下 寿秀 副査 岩城 孝行